

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2014年6月6日

No.22

夏季手当 第4回交渉報告

**組合員の努力に対する利益還元は当然！  
会社は覚悟と誠意をもって組合員に応えよ！**

中央本部は本日10時より夏季手当第4回交渉を行い、会社は現時点における夏季手当に対する考え方を明らかにしました。

## 【会社の考え方】

- ・5月の収入動向は対計画ベースでコンテナが99.5%、車扱94.8%であり合計99.1%となった。対前年との比較では102.6%となっている。6月についても5日時点であるが対計画ベースでコンテナ98.5%、車扱99.6%の合計98.6%となり対前年比102.3%となっている。
- ・収入確保に向け引き続き着地インセンティブの実施などの営業施策を全力で取り組む。
- ・一方経費面においては昨年に比べ動力費が13億円、線路使用料9億円を含め、全体で合計33億円の経費増となる。
- ・会社として夏季手当の基本的な考え方は昨年度実績を基にするが、会社全体の収支状況を見たらうで社員の生活維持やモチベーションの向上、昨年度の決算状況といった部分も考慮して最終的に判断するが、昨年度以上という考えである。

## 【組合の主張】

- ・昨年の夏季手当交渉は賃金削減施策が出され、通常とは異なる状況での交渉であった。その実績を議論のスタートラインとすることは間違いである。
- ・平成25年度は大幅な黒字を達成し、今年度もほぼ計画通りに推移していることは、組合員の努力によるものである。期末手当において業績給の要素を重視するのであれば、直近の黒字決算に対して組合員へ利益還元が行なわれることは当然である。
- ・昨年、会社は生活給の認識を改めたが、その後の消費増税や各種料金の値上げなど生活環境は変化している。ローンが支払えないなど、組合員の生活は非常に苦しくなっている中で生活給の考え方を会社の都合良く変えることは認められない。
- ・取締役の1名増や管理者への給与カット見直しなどを実施しているが、会社経営陣が今後どのように骨身を削るのか。私たちは組合員の雇用と生活を守るために、鉄道事業の黒字に向けて努力する。だからこそ節々で組合員がモチベーションを維持できるような内容を示すことは会社の責務である。したがって会社が示した現時点の考え方は到底納得できるものではなく、組合員の切実な声を経営陣に再度伝え、再考を求める。

組合員のみなさん！私たちは、この難局を乗り越えるために具体的に汗を流す覚悟です。この覚悟に対して会社は組合員の士気を高める責務があります。組合員の努力・苦勞に対して夏季手当でしっかりと還元させるために、回答指定日に向けて職場から取り組もう！そのことを要請し第4回交渉報告とします。

第5回交渉（回答指定日）は 6月13日（金曜日）です。

以上